館報 たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館
広報委員会
印刷所
新製版
飯田市商工会館内

伸びよ！丘の子

地区体育文化の発展に

竜丘小学校新体育館は、六月二十日完成した。七月二十六日には、学校と関係者二百五十名が出席し竣工式が行われた。すでに七月二日から使用開始されている。

新体育館は、鉄骨造カラー鉄板葺で総面積九三八㎡体育主室六九〇㎡、ステージ・控室一一九㎡合わせて八〇九㎡と旧講堂五五九㎡に比べ遥かに広くなった。

それにより、バスケットコート一面、ミニバスケットコート二面、バレーボールコート一面、ミニバレーボールコート二面、バトミントンコート四面が取れる。

他に、体育器具庫、社会体育器具庫、男女更衣室、便所が併設されている。体育器具として、吊縄一基・吊環一基・肋木一基・高鉄棒一基・低鉄棒一基が備えられている。

工事費に一億三一四万円が投じられ、国庫負担一六五一万三千円、市負担四五六二万七千円、起債四一〇〇万円となっている。規定外の施設は、自治会から約三五〇万円出費された。それにより、どん帳・椅子二五〇個・テーブル・校章・時計・体育器具物置・環境整備・公民館備品（ポール掛・バレーボール審判台・バレーボールネット・バトミントンネット・カウンター・畳・卓球台運搬車・モップ）等が整った。

設計当時より面積が狭くなり残念がる声も聞かれたが、近代的で立派な体育館の完成により、学校体育、社会体育に果す役割は大きくなった。特に社会体育では、グランドと合わせ地域の利用要求に応じ切れない現状だと学校ではいっている。今後の地域課題として見逃せない現実である。一方、文化面での果す役割も大きい。竜峡地区小学校の中心校として、ここで音楽会が行われる。校内でも七月十六日には、落成記念音楽会が行われた。地区としても、八月十日には、野麦峠の映画が、九月二日には七百余名を集め田楽座公演が行われた。

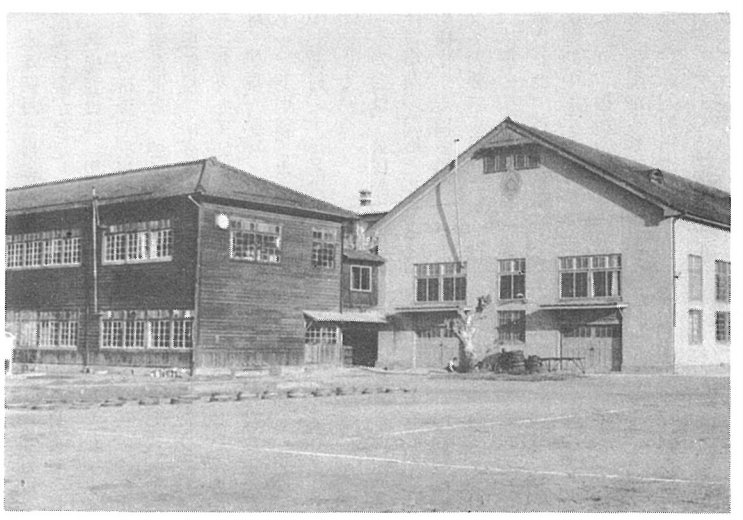
「立派な体育館が出来てうれしい。長く大切に使ってほしい」と校長先生は語られた。また、使い終えた後は報告を忘れない事、グランドへ駐車しない事を望まれた。

来年度は、二学級増加され、旧校舎が普通教室として使用される。将来は、六学級増と言われているが二期工事の具体的見通しは無い。早期着工を望みたい。

そして、このように竜丘の人口は増えている。そんな新しい時代の体育・文化の場として新体育館の機能を十分生かしていきたいものである。

なお、昭和十一年完成以来四十三年間にわたり親しまれて来た「講堂」は、六月二十六日午後、たった四時間のうちに姿を消した。跡地はグランドとなり百m×九〇mの広いスペースが取れるようになった。校長室には、こけむした北側の鬼瓦と棟瓦が置かれてある。

白亜の殿堂



あの日あの時……

54年成人式該当者
男子　46名
女子　40名
計　86名

53年度出生者数
男子　28名
女子　34名
計　62名

体育館が新しくなって

竜丘小学校　今村栄志

今年二月、新しい体育館が建つと聞いた時、飯田市で一番大きく、設備の整った体育館が出来るといいなあー、そして、何処の学校にも負けないカッコイイ体育館が出来ることを僕達は望みました。

でも、「今まで使用して来た体育館は、どうなるのかな？」と考えると、ちょっと心配になりました。日が過ぎるにつれて、そんな心配も忘れて、「早く体育館が建つといいなあー。体育館が出来たら、思いきり飛び回ってやるぞ」と新しい体育館をいろいろと想像しました。

いよいよ工事が始まり、鉄筋が一本一本建つにつれ喜びがましてきました。体育館の型が出来ると「すごいなあー」と言いながらみんな目をクリクリさせながら見上げていました。

新しい体育館の工事が進み、完成も近い頃、古い体育館が壊されることになったのです。僕達は、その体育館に集り、校長先生のお話しを聞き、体育館にお別れをしました。お父さんやお母さんの頃から使われて来た体育館がこれから壊されるのかと思った時、とてもさびしく感じました。いよいよ体育館が壊され始めた。ドドドォー、ガッシャンと何度も何度も、ものすごい音が、そこらじゅうに鳴りひびいた。僕には、その音が、僕達と別れるのがつらくて泣いているように思えてしょうがなかった。最後にドドドォー、ガッシャン、ドドドォー、ものすごい音とともに古い体育館は、僕達とさようならしてしまいました。僕達の胸は、つまったようになり、何んとも言えない気持でした。ものすごいホコリが立ち、長い間使われてきた事を意味していました。それから、しばらくして、いよいよ新しい体育館が完成しました多くの方々、そして汗水流して働いて下さった皆様、先生、そしてお父さん、お母さん、本当に有難とうございました。僕達はこれから、この体育館で一生懸命運動をし、学び、遊び健康な身体を造っていくことで、恩返しをしたいと思います。又この素晴しい体育館をいつまでも美しく、楽しく使えるように、大切にしていきたいと思います。どうも有難とうございました。

って喜びました。

今まではなかった設備がいろいろと整っていて、扇形のカッコいい想像以上の立派な体育館です。こんな体育館で運動が出来、そして思いっきり遊ぶことの出来る僕達は、大変に幸せです。このように立派な体育館にと一生懸命してくださいました多くの方々、そして汗水流して働いて下さった皆様、先生、そしてお父さん、お母さん、本当に有難とうございました。僕達はこれから、この体育館で一生懸命運動をし、学び、遊び健康な身体を造っていくことで、恩返しをしたいと思います。又この素晴しい体育館をいつまでも美しく、楽しく使えるように、大切にしていきたいと思います。どうも有難とうございました。

大学講座盛況

学習の引き金になれば!!

「竜丘村を考える」をテーマとした竜丘市民大学の開設は住民意識を少なからず刺激する効果となり、先に行なわれた「夏期講座」では延べ、二四〇余名の受講者が学び、駆けだしの市民大学講座としては盛況の内に終了しました。

主催である文化委員会では、体育事業に片寄りがちな今の公民館事業の中で、「住民が気軽に参加できる社会教育の場作りと、内容的にも実のあるものにしたい」との位置付けから、市民大学の開設に踏みきったもので、テーマも誰もが出席できる内容から、郷土について学ぼう、その為には竜丘の歴史を尋ねる事が先決となり、今回の運びとなったものである。

開講初日は「竜丘村の誕生の経緯」として中田館長が講演しその中で「市民意識が次第に確立して来ている今、村のコミニティ文化がどう根づいて来たのか、又新しいコミニティ文化を創造して行く事が必要ではないか」と……

二日目は「青年と時代の動き」と題して、北沢小太郎さんが、「先輩達が生きて来た歴史の中で何か学んで生きたいそして、これからの青年に期待したい」と結びました。

最終日は「文学と竜丘の歌人たち」として岡村美文さんが、「文学、短歌ともに自分を表現する材料であり、自分を培う上で有益ではないか」と語りました。

受講者の中には、明治、大正、昭和にわたり、竜丘の歴史と共に歩んだ生き証人小林八十吉さんの姿が目をひきました。小林さんは「自分の生きた時代を聞かしてくれてとても懐しく嬉しい」と感慨に浸っていました。

公民館では今回の講座が予想以上に良い結果を生んだ事について、テーマを竜丘の過去に絞った点が、人人の共感を呼ぶ結果となったと判断し、来年一月に予定している冬期講座「続、竜丘村を考える」に自信を深めています。

「古きを尋ねて新しきを知る」文化村竜丘を踏まえて、地域が抱えている問題そして課題等、それらを知り、学ぶ事が本来の市民講座であり、今後の姿ではないかと！

村のおいたちを学ぶ

婦人の社会参加を

婦人の集い開かれる

八月二十六日婦人会主催公民館後援の「第一回竜丘婦人の集い」が新装なった竜丘小体育館に於いて六十余名の参加を得て行なわれた。

関係者の挨拶、社会体育指導員を迎えての健康体操運動会の民踊練習、卓球、バトミントンと終始なごやかな雰囲気の中で行なわれた。日頃の疲れを吹き飛ばすように、あちこちで笑いがこぼれ生き生きとした顔で「楽しい。もっとやりたい」「明日、身体が痛くなるヨ」と語り合う声があふれました。

指導員によると健康体操とは「家族の健康管理を任せられている主婦が、近年盛んな種々のスポーツに参加しにくい現状に対処して家庭内で家族と共にこの体操により、主婦の体力維持をはかることを目的としたもの」とのことです。

この集いの主旨は、竜丘の種々の婦人団体やサークルの参加により、各々の親睦と連帯を深め婦人の輪を広げ、もって地域参加や社会参加を目指そうとするものです。参加した婦人の方々の総和により、竜丘全体に、生き生きとした笑いが広がることを期待したいものです。

「盆常会対抗野球大会」
八月十五日
優勝　駄科北平
準優勝　時又十五常会
三位　時又駅上
三位　駄科中央

「分館対抗ソフトボール大会」
八月二十六日
男子　女子
優勝　桐林　時又
準優勝　時又　長野原
三位　上川路　桐林

ヤングの教室

◉九月のはじめ飯田市保育園保護者大会が行なわれ国際児童年によせて〝人間性豊かな子どもを育てるために〟のテーマで分科会が持たれ『子どものあそび』の分科会に参加した父母から「子どもたちが外で遊べなくなった」「異年令での集団の遊びができない」「昔から伝わる遊びが受けつがれていかない」など現状が報告され、ことに園児と小学生との遊びがなかったり親自身も遊ばせない社会となっています。◉子どもは遊びを通して体力を養い創造力を伸ばし、がまん強さを育てたり社会性や情緒を養い心豊かな人間性を身につけることが出来ますが、ソロバン・ピアノ・習字・スイミング等の塾通いや、勉強、勉強と親の掛声が子どもたちの遊びを、いや人間的成長を妨げています。◉国際児童年だというのにわが国では今年に入ってからすでに五百人以上の未成年者が自殺しています。

子どもたちの落ちこぼれの問題やひよわなからだ、生活意欲の欠如も目立っています。「学力をきちんとつけてもらいたい」「非行や自殺に走らないように」など父母の願いは切実です◉今はエリート教育をすすめるために〝だめな子〟は切りすてる、非行に走れば取り締まる、さらに教育の官僚統制を強め文部大臣の「教育勅語」賛美にみられる反動的な道徳をおしつける、このような教育のゆがみをきっちり捕える必要があります。

◉残念だったのは、保護者大会が十回も開かれてきたのに教訓と成果の積み上げが明確でなかった事、役員と助言者に前向きの姿が見られなかった点が気になりました。子どもの豊かな成長を願う意味でも今回の総選挙を生かしたいものです。

区民の声はいかに
時又公民館改築で足踏み

時又公民館が来年までに改築される運びとなりました。

時又公民館の改築については、ここ数年来、区民から卓球が二面できる広いホールを、老人会、婦人会等の総会ができる広間を、さらに八王子神社の祭典に際して、多くの区民が参集できる広間を等、多くの要求が出されていました。

こうした区民の要求をどう吸い上げ、集約し、公共施設としての役目を充分果すことのできる建物にしていくか、重要な課題となってきました。

しかし現実において、改築の裏付けとなる資金面が大きくクローズアップされてきました。

この点について時又の代議員会の中でたいへん論議を呼んだところです。

将来を見越して充分要求を反映した規模設定がされれば、当然負担の増加は覚悟しなければならない問題です。

したがってどのように要求を反映し、どの程度に規模設定をし、これに対して資金をどうするか（補助、寄付、各戸負担等）、区民の判断が重要な要素となってきます。

現在の社会状勢を反映して、資材の高騰など予算とも相当開きがでるという困難な実態の中で、改築決定に踏み切り、実現に向けてどう進めていくか注目されているところです。

◇時又公民館改築決定に至る経過

三月十五日代議員会＝趣旨説明以降、区内的な団体の意見聴聞会、代議員組長合同会議、五月十三日代議員会＝改築決定、建設委員会発足

◇改築に対する概況

◉建物　百八十㎡、総工費九百五十万円（中村建設）

◉資金　県補助六十万円、さらに特殊寄付をつのる等種々検討されたが、各戸負担＝千五百円、残額を区費割とし、均等払いの八年返済。

◎地区内四分館の現状

《長野原》

昭和四十六年に総工費三百万円で新築、資金は全戸（当時百戸位）が簡易保険へ加入し、簡易保険から融資を受け対処、最終的に各戸三万円～三万五千円位の負担、新加入者も三万円負担。

現在の集会所に対し、広さの点で要望があるが、具体的改築予定なし。建物と隣接のグランドの拡張（子供の遊び場の確保、スポーツに使用）要求あり。ホールを子供分庫に一部使用、地区文化祭等多彩に利用されている。

《桐林》

現在の公民館に対して、各部落に集会所があるため改築の必要性等さほど切実さを感じていない。しかし老朽化が進んでいる点等、区、公民館で補修か、改築か研究を進めていきたい。

《駄科》

現在の公民館に対して、広さの問題など要望はあまり出ていない。具体的改築予定なし。

《上川路》

現在の公民館に対して、広さの面でもう少し多くの集会が同時に開催できる施設にとの要望があるが、具体的に改築予定なし。

◎鼎町の、規模、資金面における実態紹介

《中平公民館》

昭和五十二年総工費二千八百万円（国庫補助一千万円、県補助五百万円、町補助五百万円、各戸負担＝持家世帯五万円、借家世帯五千百円）、階段、ローカ等充分余裕あり。補助の関係で調理室等制約がある。鼎町のほぼ中央にあたり、大いに利用されている。

《上山公民館》

昭和五十一年総工費二千百万円、各戸負担＝持家世帯三万円以上、借家世帯二千円以上。

他に児童館（切石等）、農業後継者研修センター（名古熊）という名目で建設されている。

随想リレー　〔112回〕

真のスポーツとは

時又　今村周己

あの人は良くスポーツができていいなあ！と良く人々は口にする。この言葉の中に羨望と諦めの心がひそんではいないだろうか。生まれながらにスポーツの上手な人はいない。我々の周囲を見る時小学校の時は上手な人も高校ではあまりふるわず、小学校時代むしろ下手な人が上手になった例は数多く見られます。

さて我々はスポーツを観戦しながら批判したり、怒りをぶつけたり、喜びにふるえることがあります。又ファインプレーに驚嘆したりもする。夏の高校野球の太陽の光をはねかえす体、暑さに負けぬきびきびした動作、白球を追う目、打たれても打たれても投げ続ける顔、たちのぼる砂ぼこりの中からこぼれる白い歯等等の姿から真摯な熱いものが肌に伝って来ます。このことがスポーツの持つ本領を感じております。そこで日本体育協会の綱領の中にも、

「スポーツは人間だけが持つ文化の一つであり、これをより高くより美しいものにするには精神と環境が清らかなことが必要で、これをもとに生活することが社会に貢献することにもなる。ここに真のスポーツがあまねくいきわたり、すべての人のものとして発展することを願い」とあるように見せるスポーツから、自らやるスポーツへと変えることで、スポーツ人口の広がりを図ることの重大性を感じます。

最近親子マラソン、少年野球、ソフトボールや早起野球等に含まれない人々が太陽に親しみ自然に接することが健康をとり戻す方法であり、更にスポーツをくりかえし行う努力が技術を高めて、すがすがしさの中から健康が増進されて体力に自信を与えて生活する自信を持たせる上に大きな力となることを体得することが出来るものと信じます。然し熱心のあまり過酷に落ち入らぬようお互に注意し合うことが肝心である。そして体育指導員とも接しグループを作り楽しみながら進めることもポイントの一つである。竜丘のスポーツ人口が更に広がり平和で健康な地域になることを切に願いたい。

農家に嫁さんを

都会の娘さんたちを飯田に迎えて、農村の若人たちとの交流を通じて、農村のよさを理解してもらい友好を深めようというねらいの「農村と都市を結ぶ若人のつどい信州飯田大会」が、八月二十四日から三日間開催され、竜丘地区においても「土塊の会」の会員が参加した。

このつどいは、飯田地区農業クラブ連絡協議会などの主催により開催したもので、十九才から二十五才までの愛知県や静岡県などの娘さん十数人が飯田市周辺の若人と交流会や撰果場の見学などをしたのを始め、農家へ二泊し農作業を経験したり家族との交流を楽しんだ。

竜丘地区では、今村健さん（上川路）のお宅へ愛知県や静岡県などの娘さん三名が泊まり、経験したことのないキューリや花の手入れを手伝ったり、農家の日常生活を体験した。

参加した娘さんたちから「良い企画であった」という意見が出ていましたが、今村さん宅へ宿泊した娘さんたちも「良い経験をした」とのことで好評だったといえる。

しかし、反省会の中では「もっと仕事を経験したかった」「このような企画があることを知らない人が多い」「気をつかってもらい過ぎた」など、これからの企画にとても参考になる様な意見が出され、次回以降が期待される。

農家の嫁さん不足と言われているが、竜丘地区でも例外ではない。

この様な企画により、農家の良さを見直してもらい少しでもその様な悩みを取り除きたいものである。

ハウスの中でなごやかに

あの人この人

（六月二十一日～八月三十一日届出）

◎永遠に幸あれ

岩波　正人　松本市より
（中島　京子　桐林）

◉伸びよ健やかに

氏名　部落　父名
原　知幸　駄　幸夫
矢澤　恵美　駄　高廣
中田　幸江　桐　良幸
伊原　正志　桐　廣幸
木下　智裕　上　雅義
今村　仁　時　慈康
下平マリ子　時　拡司
伊原　浩治　桐　國雄
笹岡　崇　時　繁秋
林　愛　桐　正己
岡村　有華　時　和弘
川手　彩子　駄　稔員
下平　勝哉　桐　勝熙
吉川　康浩　駄　國昭
宮田　悠子　時　謙
坂井　賢治　桐　豊彦

■御冥福を祈る

氏名　部落性　年令
下平まちゑ　駄　女　八一
森　仁上　男　六四
岡村　償　桐　男　五四
藤岡　賢吉　時　男　七七
今村　きく　時　女　八一

つえをスティックに もちかえて
◎◎＝憩老の日＝

竜丘老人学園は、八月二十七日カルニュー光学グランドに於いて、第一回ゲートボール大会を開催した。

時又、桐林、長野原、上川路は男女各一チーム、駄科は男女各二チームが出場それに応援団が加わり約百名が参加し、初秋の青空の下で熱戦が繰りひろげられた。

その結果男子は時又白寿会、女子は駄科上平老人会が優勝し九月十八日松尾小学校で行なわれる飯田市の大会への出場権を得ました。

ところでこの競技は戦後外国から輸入され大衆的スポーツをめざして研究が重ねられ、特に体力が不要、誰にでも簡単に出来ると云う事から高令者、特に老人会を中心に普及している。競技は、十五㍍×二十㍍の長方形のグランド内に三ケ所のゲート（幅二十二㌢高さ三十一㌢）を設け、直径七㌢の堅木で出来たボールをスティックと呼ばれる槌で打ちながらボールを制限時間内にゲートを通過させ、最後はゴールポールにボールを当てて得点を争う競技。試合は一チーム五人で行う。二チームが紅白に色別された各自のボールを一人ひとり順番に打ちながら競技を進めていく。

大会を前に各部落代表は練習を重ねた様子で、とても第一回大会とは思えない技量であった。又応援団も力一ぱいの声援を送り楽しい一日であったと云う。

老化を防ぎ健康維持の秘決は〝頭を使え、声を出せ、足を使え〟の教えにピッタリのスポーツであり、今後増々発展するであろうし、竜丘老人学園発展のためにもそうあってほしい。

うまく入るかな？（カルニューグランド）

体育指導員ってなあに？
制度に期待と不満が

本年四月一日に竜丘体育指導員会が発足した。

各指導員は、現在活動している排球や羽根球などの教室推選と、地区内推選で公民館長　が委嘱し、任期を二年としている。現在野球、排球、卓球、ソフトボール、羽根球、水泳、民踊の七種目、十三名の方にお願いしている。

この会は、公民館の社会体育事業の発展と年ごとに多様化する地区民のスポーツへの要求を受け入れ、社会体育の振興を期して、組織された。各指導員は、公民館の主催する事業の実施に当り、担当の事業に対して、企画から参加し、実施まで、専門的指導及び、助言をしてもらうことを目的としている。

また地区内の各種団体やグループより要請があれば指導、助言に参加してくれることになっている。尚この場合は要請した団体、グループが、謝礼等の費用を負担することになっている。

この体育指導員会が発足してから行われた事業はまだ少なく、小学校プール開放時の水泳、盆の常会野球四十五才以上のソフトボール大会、そして八月二十五日に開かれた竜丘婦人のつどいには、卓球、羽根球の指導員が参加し、婦人の方方と共に汗を流していた。

一方この体育指導員会は公民館の体育委員会の補助的機関であり、指導員に、専門的指導、助言を受けながら、地区内の社会体育を発展させるものであり、体育指導員会が、体育委員会の替りにはなりえない。

今後の問題点としては、増々盛んになるであろう、地区民のスポーツへの要求を満たす為には、庭球、籠球など、地区内には、まだ多くの種目の指導員を必要とするであろう。この為にスポーツを中心とした、人材銀行の様なものを作り、常時、地区民の要求に答えられる様にしたいものだ。また、現在の指導員の中には、公認指導員の資格を、もっておられる方達もおりより、専門的で高度な指導を受けられるわけだが、一年間の謝礼金が三五〇〇円と少なく、この面においても、今後改善していく必要があるだろう。

ともあれ、発足したばかりのこの体育指導員制度が地区内の社会体育の発展に大いに寄与して、竜丘の公民館活動の大きな柱となる事を期待したい。